

次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。

翌朝、目を覚ましたときも、まだ舌の根にゆうべのうまさが残っていた。あんなにうまい土産をもらったのだから、今朝もまた川へ出かけて、①そばのだしを釣り直してこなければなるまいと思っていたのだが、その必要はなかった。父親が、一日半しか休暇をもらえなかったので、今夜の夜行で東京へ戻ると言い出したからである。どうりで、ゆうべは雑魚の②食い方が尋常ではないと思ったのだ。

午後から、みんなで、死んだ母親が好きだったコスモスとききよの花を摘みながら、共同墓地へ墓参りに出かけた。盛り土の上に、ただ丸い石を載せただけの小さすぎる墓を、③せいせい色とりどりの花で埋めて、供え物をし、細く裂いた松の根で迎え火をたいた。

祖母は、墓地へ登る坂道の途中から絶え間なく念仏を唱えていたが、祖母の南無阿弥陀仏は、いつも『なまん、だあうち』というふうで聞こえる。ところが、墓の前にしゃがんで迎え火に松の根をくべ足していたとき、祖母の『なまん、だあうち』の合間に、ふと、

「④えんびフライ……。」という言葉が混じるのを聞いた。

祖母は歯がないから、言葉はたいがい不明瞭だが、そのときは確かに、えんびフライではなくえんびフライという言葉が漏らしたのだ。

祖母は昨夜の食卓の様子を(えんびのしっぽが喉につかえたことは抜きにして)祖父と母親に報告しているのだろうかと思った。そういえば、祖父や母親は生きているうちに、えんびのフライなど食ったことがあつたらうか。祖父のことは知らないが、まだ田畑を作っている頃に早死にした母親は、あんなにうまいものは一度も食わずに死んだのではなからうか——そんなことを考えているうちに、⑤なんとなく墓を上目で見られなくなった。父親は、少し離れた崖っぷちに腰を下ろして、黙ってたばこをふかしていた。

⑥父親が夕方の終バスで町へ出るので、独りで停留所まで送っていた。谷間はすでに日がかげって、雑魚を釣った川原では早くも河鹿が鳴き始めていた。村外れのつり橋を渡り終えると、父親はとって付けたように、

「こんだ正月に帰るすけ、もつとゆっくり。」

と言った。すると、なぜだか不意に⑦しゃくり上げそうになって、とっさに、

「冬だら、ドライアイスもいらねべな。」と言った。

「いや、そうでもなかべおん。」と、父親は首を横に振りながら言った。「冬は汽車のスチームがききすぎて、汗こ出るくらい暑いすけ。ドライアイスだら、夏どこでなくいるべおん。」

それからまた、停留所まで黙って歩いた。

バスが来ると、父親は右手でこちらの頭をわしづかみにして、

「んだら、ちゃんと留守してれな。」と揺さぶった。⑧それが、いつもより少し手荒くて、それで頭が混乱した。んだら、さいなら、と言うつもりで、うっかり、「えんびフライ。」と言ってしまった。

バスの乗り口の方へ歩きかけていた父親は、⑨ちよつと驚いたように立ち止まって、苦笑いした。

「わかってらあに。また買ってくるすけ……。」

父親は、まだ何か言いたげだったが、男しやしよが降りてきて道端に痰をはいてから、

「はい、お早くう。」と言った。

問1 傍線部①「そばのだし」とは何か。文中から二字で抜き出さない。

問2 傍線部②「食い方が尋常ではない」とあるが、父親がこのようにしたのはなぜか。次の()に当てはまる言葉を文中から指定の文字数で書き抜きなさい。

問3 傍線部③「せいぜい」という表現からどのようなことがわかるか。最も適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

問4 傍線部④「えんびフライ……。」と祖母が言ったのはなぜだと主人公は思っているか。そのことがわかる一文を探し、はじめの五文字を書き抜きなさい。

問5 傍線部⑤「なんとなく墓を上目でしか見られなくなった」とあるが、それは主人公が誰に対して、どのような気持ちになったからだと考えられるか。三十文字以内で説明しなさい。

問6 傍線部⑥「父親が夕方の終バスで町へ出る」とあるが、このときの主人公と父親の寂しい気持ちが読み取れる情景描写の一文を探し、はじめの三字を書き抜きなさい。

問7 傍線部⑦「しゃくり上げそうになって」について、次の各問いに答えなさい。

問8 傍線部⑧「それ」とあるが、どんなことか。二十文字以内で答えなさい。

問9 傍線部⑨「ちよっと……苦笑いした」とあるが、父親は主人公からどのような言葉を期待していたと考えられるか。当てはまらないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

問10 次の記事は南さんが『盆土産』について話したものである。次の(i) (ii) (iii) に当てはまる言葉を答えなさい。なお、

(i) (ii) (iii) は文中から抜き出し、(iii) は、考えて簡潔に書くこと。

父の土産である(i)を、登場人物が会話の中で、(ii)という方言で話しているところがこの作品のおもしろさだよ。方言を使うことにより、家族の温かさを表現する働きがあると思う。父親との別れの場面で、主人公が(ii)と言ってしまったことから、(ii)は主人公にとって、ただの食べ物ではなく、(iii)ものだったんだろうね。

父の土産である(i)を、登場人物が会話の中で、(ii)という方言で話しているところがこの作品のおもしろさだよ。方言を使うことにより、家族の温かさを表現する働きがあると思う。父親との別れの場面で、主人公が(ii)と言ってしまったことから、(ii)は主人公にとって、ただの食べ物ではなく、(iii)ものだったんだろうね。

二 次の文章を読んで、後の各問いに答えなさい。

終戦の年の四月、小学校一年の末の妹が甲府に学童疎開をすることになった。既に前の年の秋、同じ小学校に通っていた上の妹は疎開をしていたが、下の妹はあまりに幼く不憫だというので、両親が手放さなかつたのである。(あ、三月十日の東京大空襲で、家こそ焼け残ったものの命からがらのめに遭い、このまま一家全滅するよりは、と心を決めたらしい。

妹の出発が決まると、暗幕を垂らした暗い電灯の下で、母は当時貴重品になっていたキャラコで肌着を縫って名札を付け、父は①おひだしい葉書にきちょうめんな筆で自分宛ての宛名を書いた。

「②元気な日はマルを書いて、毎日一枚ずつポストに入れなさい。」
と言ってきかせた。妹は、まだ字が書けなかつた。

宛名だけ書かれたかさ高な葉書の束をリュックサックに入れ、雑炊用のどんぶりを抱えて、妹は遠足にでも行くようにはしゃいで出かけていった。

一週間ほどで、初めての葉書が着いた。紙いっぱいはみ出すほどの、③威勢のいい赤鉛筆の大マルである。付き添って行った人の話では、地元婦人会が赤飯やぼた餅を振る舞って歓迎してくださつたとかで、かぼちやの茎まで食べていた東京に比べれば大マルにちがいがあつた。

ところが、次の日からマルは急激に小さくなつていった。情けない黒鉛筆の小マルは、ついにバツに変わった。その頃、少し離れた所に疎開していた上の妹が、下の妹に会いに行った。

下の妹は、校舎の壁に寄り掛かつて梅干しの種をしゃぶっていたが、姉の姿を見ると、④種をぺつと吐き出して泣いた。そうなの。
(い) ⑤バツの葉書も来なくなつた。三月目に母が迎えに行ったとき、百日ぜきをわずらっていた妹は、しらみだらけの頭で三

畳の布団部屋に寝かされていたという。

妹が帰ってくる日、私と弟は家庭菜園のかぼちやを全部収穫した。⑥小さいのに手をつけると叱る父も、この日は何も言わなかつた。

私と弟は、ひと抱えもある大物からてのひらに載るうらなりまで、二十数個のかぼちやを一行に客間に並べた。これぐらしか妹を喜ばせる方法がなかつたのだ。

夜遅く、出窓で見張っていた弟が、
「帰ってきたよ！」

と叫んだ。茶の間に座っていた父は、⑦はだしで表へ飛び出した。防火用水桶の前で、やせた妹の肩を抱き、声を上げて泣いた。⑧私は

問1 (あ)(い)に入る語句を次から選び、記号で答えなさい。

ア、まもなく イ、さらに ウ、それとも エ、たとえば オ、ところが

問2 傍線部①「おびたらしい葉書」と同じ意味の語を文中から書き抜きなさい。

問3 「当時貴重品になっていたキヤラコ」「かぼちゃの茎まで食べていた」の他に当時の東京の暮らしがわかる表現を十一字で探し、はじめとおわりの三字を書き抜きなさい。

問4 傍線部②「元気な日はマルを書いて」とあるが、なぜこのように言ってきたのか。理由となる一文を書き抜きなさい。

問5 幼いために疎開のつらさが理解できていない妹の様子が、比喩を用いて書かれている部分を十字で書き抜きなさい。

問6 傍線部③「威勢のいい赤鉛筆の大マル」について、次の各問いに答えなさい。

(1) 妹がこの葉書で伝えたかったのはどのような様子か。付き添って行った人の話を参考にして、二十字以内で答えなさい。
(2) 表現上、これと対照的な部分を抜き出して答えなさい。

問7 傍線部④「種をぺっと吐き出して泣いた」ときの妹の気持ちとして適切なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、梅干しの種をしゃぶっているところを姉に見られて恥ずかしく思った。

イ、姉の姿を見て、自分一人を疎開に出した家族に対して恨めしく思った。

ウ、姉の姿を見て、自分だけが食べ物を食べているのが申し訳なかった。

エ、姉の姿を見て、こらえていたひもじさや寂しさがあふれ出した。

問8 傍線部⑤「バツの葉書も来なくなった」のはなぜか。文中の言葉を使って具体的に二十字以内で答えなさい。

問9 傍線部⑥「小さいのに：言わなかった」とあるが、それはなぜか。理由を説明した次の文の()に入る語句を考えて答えなさい。

・父は、() i () という () ii () の願いを理解していたから。

問10 傍線部⑦「はだして表へ飛び出した」とあるが、このことから父のどのような気持ちが読み取れるか。「心配」という言葉を用いて、三十字以内で答えなさい。

問11 傍線部⑧「私は父が、大人の男が声を立てて泣くのを初めて見た」とあるが、このときの「私」の気持ちとして正しいものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

ア、いつも強気な父の弱い部分を見たようで情けなかった。

イ、父が自分より妹を大事にするのをうらやましく思った。

エ、大人の男がなぜこんなに泣くのか不思議に思った。

三 次の各問いに答えなさい。

問1 傍線部の言葉を正しい敬語に直しなさい。

- (1) 私は南中館夫と言います。 (2) お客様がケーキを食べる。 (3) 先生にお話を聞く。

問2 次の傍線部は A 丁寧語 B 尊敬語 C 謙譲語 のうちどれか。記号で答えなさい。

- ① 作品を拜見する。 ② お客様が、大勢いらつしやる。 ③ 当店は、創業百年の和菓子屋でございます。

- ④ 弊社 ⑤ 芳名 ⑥ 貴校

問3 次の文の正しいものを【】から一つ選び、記号で答えなさい。

- (1) 髪を【ア、伸ばす イ、延ばす】。 (2) 議案を生徒委員会に【ア、測る イ、計る ウ、諮る エ、図る】。
(3) 真理を【ア、追求する イ、追究する】。

問4 次の語の対義語を、書きなさい。 ① 失敗 ② 具体 ③ 運動 ④ 生産

問5 次の言葉から、活用するもの(用言)をすべて選び、記号で答えなさい。

- ア、曲げる イ、もつと ウ、静かだ エ、ああ オ、大きな カ、雨 キ、あちら ク、大きい

四 次の——線部の漢字はひらがなに、ひらがなは漢字に直しなさい。

- ① 華やかな服装 ② 精進料理 ③ 志が高い ④ 木綿の布地 ⑤ 進化が著しい

五 次の1〜5の条件に従って作文を書きなさい。

1. 「もしも自分自身に〇〇フリーの日をつくるなら、何から解放される日にするか」について百二十字以上、百六十字以内で書きなさい。ただし、題名・氏名は必要ありません。

※この条件を守れないと得点になりません。

2. 二段落構成で書き、一段落目には自分がつくりたい「〇〇フリーの日」について書くこと。

3. 二段落目には、その理由を、具体的に書くこと。

4. 文体は常体（〜だ・〜である調）で統一して書くこと。

5. 誤字・脱字や文法の間違い、原稿用紙の使い方注意して、丁寧な文字で書くこと。

盆	30		
葉書	31		
語句	21	6/3.3	
漢字	10		
作文	8		

対して、気持ち。

1	雑魚	2	i 日半	ii 東京	iii ゆうべ	3	ア	4	祖母は昨夜
5	母に <u>対して</u> 、自分 <u>だけ</u> うまいものを <u>食べて</u> 申								
6	し訳なく思う <u>気持ち</u> 。6 谷間は7 (1) 泣き出しそうになって								
7	正月まで父親に <u>会えない</u> ことを実感し、 <u>さみ</u>								
8	しさが <u>こみあげてきた</u> から、9 <u>イ</u>								
8	頭を <u>わしづかみ</u> にして <u>播さぶる</u> こと。								
10	i えびフライ	ii えんぴフライ	iii 家族の絆を感じさせる <u>る</u>						

1	あオ	いア	2	かさ高な葉書(の束)	3	暗幕を <u>く</u> い電灯			
4	妹は、 <u>まだ字が書けなかった</u> 。ばい								
5	遠足に <u>でも行く</u> ように								
6	(1) 赤飯や <u>ぼた餅</u> を <u>食べて</u> 元気が <u>い</u> つ <u>ばい</u> な <u>様子</u> 。								
6	(2) <u>情けない</u> 黒鉛筆の小マル								
7	エ								
8	百日 <u>せき</u> になり、 <u>葉書を</u> 書けな <u>かった</u> から。								
9	父は、(妹を <u>喜ばせたい</u>)という(私と弟・ <u>子どもたち</u>)の願いを理解していたから。								
10	娘の <u>こと</u> が心配で、 <u>姿を</u> 一刻も <u>はやく</u> 見たい								
11	という <u>気持ち</u> 。								

1	(1) 申し <u>申します</u>	(2) 召し上がる <u>召かかると</u>	(3) 伺う <u>お伺い</u>			
2	① C	② B	③ A	④ C	⑤ B	⑥ B
3	(1) ア	(2) ウ	(3) イ			
4	① 成功	② 抽象	③ 静止	④ 消費	5	ア・ウ・ク <u>2点</u>

1	はな	やか	2	しょうじん	3	ころろ	4	もめん	5	いちじる	しい
6	模様	7	展示	8	車掌	9	真摯	10	傾ける		

